

●フロント回り

フロント回りは、初代モデルスーパーカブ C100同様「ユニットステア」の構成を採用し、ハンドルからフロントフォークまでの可動部全てを一体の外観として扱いました。

その結果、ライダーの膝から上とレッグシールドの距離がより近づき、ライダー乗降性を損なうことなく、風の巻き込みを抑制し居住性のさらなる向上にも寄与しています。

また、フロントフォーク両端にエッジを通すことで、ボディーS字部のエッジラインと調和を図りながら、フロントタイヤとボディー側双方をしっかり支えているフロント回りの印象としました。



■フロント回り

●ハンドル

初代モデルスーパーカブ C100の「鳥が翼を広げたような形のハンドル」は、初代モデルの大きなチャームポイントとなっています。これは当時、鉄板プレス成形を前提としたハンドル製造面の課題解決を図ると同時に、幅広いお客様を想定したコンピューターにふさわしいライディングポジションを実現するため、当時の開発チームが一丸となって取り組んだ結果、製法、機能、美しさを調和させたものです。

私たちは、スーパーカブ C125にこのハンドルのモチーフを取り入れ、先人達の情熱を未来に伝えようとしています。

初代モデルスーパーカブ C100のライディングポジションの特徴である、背筋がスッと伸び、混雑した市街地でも前方を見通しやすい開放的な視野が得られる姿勢を基本に、操作しやすい自然な位置にグリップを配置。これにハンドルスイッチ、メーターなどを一体化した立体的なフォルムの美しさを最大限に引き出すため、形状再現性にすぐれた成形樹脂でハンドルパイプを内蔵する構造としました。ハンドルパイプにはテーパ加工を施すことで、完成車と調和したハンドル部のボリューム感を実現しました。



■ハンドル回りCGイメージ



■フロント回り